

活動テーマ 建築塗装業で働いている若者の技能向上

活動期間 2018年4月～2019年3月（以降継続）

発表日 2018年10月24日
東京都塗装高等技術専門校

目的

- ▶ 当専門校では、建築塗装業で働いている方の教育訓練を行っております。
 - ▶ 授業内容に関しては、職業能力開発促進法に基づき科目の種類や時限数を決めています。授業の進め方は、過去の講師の流れを受け継ぎ行っている状況です。
 - ▶ 講師として会社経営者、塗料メーカー社員、塗装職人が行っており、講師の約6割が当専門校の修了生であり、校長も修了生です。
 - ▶ 校長と講師で、どの様にすれば訓練生の更なる技能向上となるかを議題にした会議を開催し、技能向上を目的とした2つの課題を考えました。
-
- ▶ 「訓練生が理解しやすい授業とする」
 - ▶ 「訓練生を即戦力とする」

訓練生が理解しやすい授業とする 実技編

- ▶ 実技指導方法として、
- ▶ 「見て（講師が作成した見本）」
- ▶ 「聞いて（説明）」
- ▶ 「やって見せて（実演）」
- ▶ 「やらせてみて（作業）」
- ▶ 「評価する」
- ▶ という流れで行っております。

- ▶ 今回の課題に合わせ、「やって見せて（実演）」を改善しました。

実技訓練風景（カメラ・モニター使用）

実演する講師にカメラを取付、手の動き等を画面に映し出し、大勢の訓練生に見える様にする。また、録画を行い見返せるようにする。

刷毛塗りの場合は、
右手に刷毛を持ち、
左手に塗料が入った下げ缶を
持って実演します。

パテづけの場合は、
右手に金ペラを持ち
左手にパテを載せた定盤を
持って実演します。

講師後方の特に左側の訓練生
は実演が見づらい状態となる
為、カメラとモニターの活用
はとても有効です。



Gopro→ipad→モニター
(wifi)



作業風景

2018年度訓練生数

第1学年 37名
男性33名、女性4名

第2学年 33名
男性26名、女性7名

写真は第1学年



塗装ブースでのスプレーガンを使用した授業



吹付ブースは2.5×2.5×2.5mほどの大きさの為、生徒全員では見ることが出来ません。



カメラを使い、モニターに映し出すことにより訓練生全員が見ることが出来ます。
また、講師の手元が良く見えるため、見て覚える事に関しては最善の方法です。

訓練生が理解しやすい授業とする 学科編①

教科書やプリントだけでなく、動画を取り入れた授業とする。

- ▶ 安全に関する授業では、工事現場での経験が短い訓練生にとって、教科書等ではイメージが出来ない部分があり、DVD教材を使用する事により、映像による安全対策の重要性や実施方法等を理解しやすくなります。
- ▶ 特に足場に関しては、今までは教科書での説明だけでしたが、DVD教材を使用することにより、様々な足場の種類や組み方の動画を見る事が出来、覚えやすく教科書の理解度も増しました。



訓練生が理解しやすい授業とする 学科編②

建築物の部位等の説明は、図面だけでなく、建築の模型を使用する。

- ▶ 建築物の授業では建築の模型を使用する事で理解力を上げると考えました。
- ▶ 教科書の図面以上に訓練生は興味をもち、授業に集中していました。



訓練生を即戦力とする

「足場の組立て等の業務特別教育」や「石綿取扱い作業従事者特別教育」を授業内に組み込む。

- ▶ 現場で直ぐに使える事の1つとして技能とは別に特別教育を考えました。
- ▶ 授業科目「安全衛生」と「関係法規」の授業内に組み込みました。
- ▶ 講師には、事前に特別教育のインストラクター講座を受講して頂きました。（建設業労働災害防止協会）
- ▶ 修了式に「労働安全衛生法による特別教育修了証」を配布致します。
- ▶ 特別教育に関しては、派遣事業主が訓練生を派遣する1つのメリットにもなりました。



最後

- ▶ 当専門校は2年制で、週1回9時から17時まで渋谷区の塗装会館にて授業を行っております。
- ▶ 事業主より、週1回の訓練に派遣することは現場の人数が少なくなる為に厳しいと言われます。工事現場での教育は、即戦力として育てることが出来、建築塗装業では必要とされることですが、現場で教えながら作業を進めることはとても大変です。
- ▶ また、会社内で教わる事が出来ない事もあります。
- ▶ その1つは、刷毛や金ペラの扱い方に関して、我流または、会社の流派がありそれぞれ違いがあります。これは間違えた扱い方ではありませんが、基礎となる根拠を知らないまま作業を行っている方がいる事は事実です。当専門校では工具の特徴にあった基礎となる扱い方を教えております。
- ▶ 基礎が理解できれば応用も出来、技能向上に必ず繋がります。
- ▶ 東京都塗装高等技術専門校は、建築塗装業で働く人の為に、今後も活動していきます。